

台湾知財セミナーを開催（3）

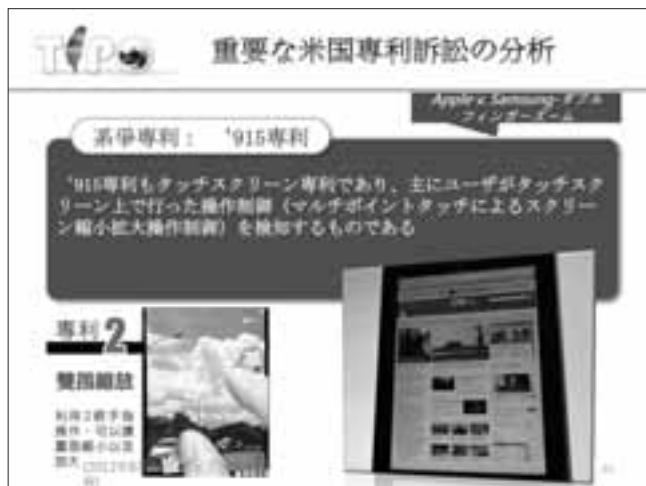
王美花

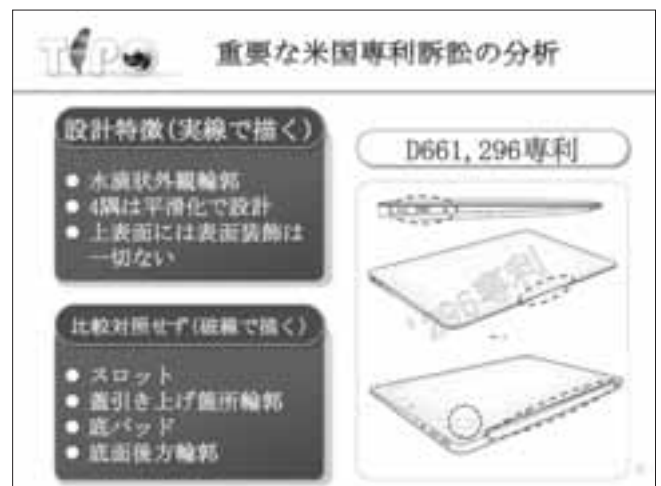
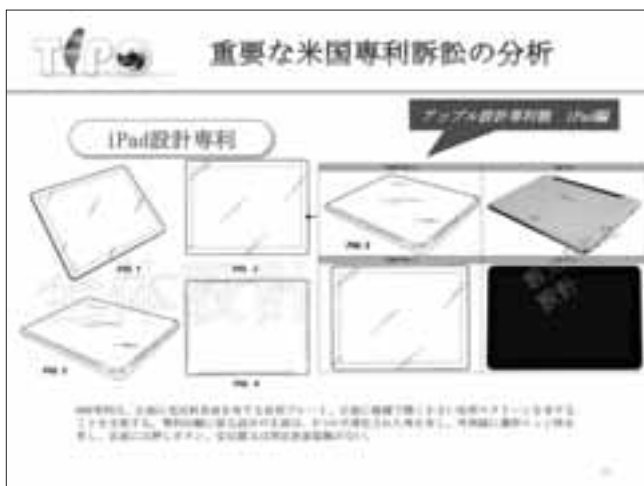
今回アップルがサムスンを訴えたさまざまな技術の特許侵害についてですが、訴えられている技術は、スマートフォンにおいてよくわれわれが目にする技術です。一つ目として挙げたのはタップズームですけれども、このタップズームはスマートフォンにおいてよく使われている技術です。また、もう一つはピンチズームと言われるもので、2本の指を使って画面を大きくしたり縮小したりする技術。もう一つはバウンズバックスクロールで、指でスクロールして画面を下のほうに下ろし、その画面が一番下まで来たときに自然にバウンズして上に上がってくるという技術。そしてもう一つは、デザインに関するものです。

アップルの iPhone の一部の設計が、他社に侵害されていると主張するものもあります。iPhone の携帯の正面の所が黒くなっている、こ

れも主張の一つになっていまして、これを保護しなさいということになると非常に大きな範囲にわたって保護していかなければなりません。そして iPad のほうになりますと、このデザインは表面に一つもボタンがないということ、そしてこれがフラットな画面であることが特徴になっています。これを保護しなければならないことになると、その影響は広い範囲にわたって保護されることが主張されるわけです。

次は、例えばグラフィックユーザーインターフェイス（GUI）ですけれども、まず裁判官はこの二つを比べています。左側がアップル、右側がサムスン。昨年、このアップルとサムスンの訴訟については、一度結果が出ています。その時は非常に高い賠償額の支払いを命じる判決が出ていますが、これはまだ引き続き訴訟が続いていて、ま





た別の判決の決定もなされているところです。

台湾の製品というのは、多くが輸出されています。ヨーロッパやアメリカの市場は台湾にとって重要な市場になってきています。ですからヨーロッパやアメリカで起こっているこの特許権の侵害に関わる訴訟というのも、台湾にとって重要な事項になってきています。今、見ていただいているものは個別の訴訟が起きていることを説明するというわけではなく、この設計の特徴が水滴状の外観の輪郭を持っているというのですが、これが台湾でも多く使われているので、この状況について台湾の企業のほうにはっきりと説明してわかってもらっています。

昨年世界的にも注目を集めましたこの特許侵害に関わる裁判ですが、これは台湾企業にも大変大きな影響を与えています。このアップルの訴訟においては、Windows Phone はそれほど大きな特

許侵害に関する影響を受けていないと言えます。例えばNOKIAですけれども、NOKIAは業績が振るわないという状況があります。しかしNOKIAは数多くの素晴らしい特許を持っているので、アップルから多くの金額をもらうことができます。

このような世界的な状況があるので、台湾でも関連するさまざまな座談会を行ってきました。まず一つは、企業でもまだ知財分野での取り組みが実際にきちんと行われていないという問題があります。そして企業のトップも、知財の分野というのはそれほどお金を掛ける必要がある分野だと考えていない上、企業の発展にとって知財が重要だということを深く認識していない人たちがいます。企業が自分たちの業績を高めていくに当たっては、まず戦略は必ず作らなければなりません。そして戦略の中に知財戦略をきっちり組み込むこ

TIPS 重要な米国特許訴訟の分析

Windows

アップルの特許訴訟によってビルゲイツは驚いた

アップルの特許訴訟によってWindows Phoneは利を得ている：ユーザーインターフェースから見れば、応用プログラムの開発を始め、使用方法、機能運用について、マイクロソフトがNOKIAと提携したWindows Phoneは、iPhoneとは極めて異なっている。これに加えて、NOKIA自体は3万件の特許を有するため、現在の情勢から見れば、アップルは、あえてマイクロソフト陣営に特許戦争を仕掛けることはない。従って、Windows Phoneの権利侵害リスクは、Androidシステムよりもかなり低くなっている。

TIPS 国際シンポジウム、企業座談会を主催した重要成果

- 企業に重要な特許戦略を提供
 - －企業には知的財産管理を重視する文化が求められており、企業CEOのサポートがあり特許戦略改革を行ってこそ、知的財産権のライセンスングを積極的に処理し、イノベーション研究開発を大きく展開し、製品競争の優位性を確保することができる。
 - －企業は、戦略的な特許ポートフォリオ、特許戦略指標、研究開発プロジェクト等の具体的な措置を確立し、特許検索を通じて研究開発の方向性を強化し、会社のビジネス戦略を決定することが求められている。

TIPS 重要な米国特許訴訟の分析

NOKIA

敵意では他人に勝てないが、まだ特許があるだろう

NOKIAはアップルとの間で複数の特許和解を達成している。アップルは、すべての費用一括払いに同意し、将来、毎年ライセンス料を継続的に支払う。現在、NOKIAは、米国とドイツそれぞれにおいてHTC、ブラックベリー製造メーカーRIM及びViewsonicに対して特許訴訟を提起している。現在、3万件の特許は、NOKIAのドル箱となっている。

TIPS VI. 結び

- IPはソフトパワーであるが、ハードパワーをさらに必要とする
 - 横向き — 特許、営業秘密、商標、著作権の全面把握が求められる
 - 縦向き — 研究開発側→出願側→運用側→訴訟戦略
 - 統合 — 市場分析、特許分析、技術レイアウト分析、特許価値
- 台湾企業は、グローバル市場においてより激しい産業競争に直面しており、大幅な体質変更及びモデル転換を行わなければ、将来的な競争に対応することはできない。

とによって、その企業の研究の方向性もしっかりつかんでいく、そういったことが行われなければなりません。

6. 結び

知財というのはいわゆるソフトパワーですが、実際にはいろいろな具体的な取り組みを行っていかなくてはならない分野です。例えば、自分たちが持っている特許、営業秘密、商標、著作権、こういったものを会社の面から、全体的な視点からきっちり把握していく必要があります。

また、社内で縦の方向での管理も行わなければなりません。開発から出発して、実際にこれを出願する、権利を実際に実施する、さらには訴訟においてもしっかりと戦略を組んでいく、こうした縦向きの管理も企業内でしっかり行わなけれ

ばなりません。また市場の分析や特許関連をめぐる状況の分析、自分たちが技術をどのように構築、発展していくのか——それに関する分析、また自分たちが持っている特許の価値の分析、そういったものも進めていかなければなりません。これが難しいところです。

台湾の企業は国際市場とともにある企業です。国際市場とともにあり、それに対して生存している企業です。ですから、今までのような代理生産のみというやり方を改めていかなければなりません。そうしたやり方を改めず、自分たちの製品の付加価値を高めないとするのであれば、国際市場の中で競争力を維持していくことはできません。ですから、企業の中でも自分たちの体制や考え方、そういったものの改革をどんどん進めていかなければならないと思います。